

# 馬産地ライター村本浩平の 2018 スタリオンシリーズ競走種牡馬名鑑

Vol. 2 | 6.26 [火] ▶ 7.19 [木] 開催分



**6.27**  
[水]

## モンテロツソ賞

2007年産まれ、英国産馬。父はDubawi、母はPorto Roca (母の父Barathea)。現役時は2~6歳時に英国、愛国、独国、UAEで17戦7勝。その競走成績が示すように、世界四ヶ国の異なった競馬やコースにおいて、長きにわたって優秀な成績を残してきたのがモンテロツソ。3歳時はGIIキングエドワード7世Sで重賞初制覇。その高い能力を見込まれ、UAEに移籍した4歳時にはGIIドバイシティオブゴールドを勝利。5歳時には日本から遠征してきたエイシンフラッシュ、スマートファルコンを向こうに回して、GIドバイワールドCをレコードタイムで勝利してみせます。引退後の2014年シーズンから日高町のダーレー・ジャパン・スタリオンコンプレックスで繋養。昨年デビューした初年度産駒は、芝の中長距離で安定したレースを見せており、クラシック戦線にも顔を出しました。昨年は72頭の繁殖牝馬に配合を行っています。

**6.28**  
[木]

## リオンディーズ賞

【栄冠賞 [H2]】

2013年産まれで安平町・ノーザンファームの生産馬。父はキングカメハメハ、母はシーザリオ (母の父スペシャルウィーク)。現役時は2~3歳時に日本で5戦2勝。2歳時の朝日杯F5では、デビューから28日でのGI制覇をという快挙を果たします。クラシック三冠での活躍が期待された3歳時は弥生賞で2着に入着しますが、皐月賞、日本ダービーと続けて5着に敗れると、秋競馬を前にした調整中に左前繋部浅屈腱炎を発症。後に不全断裂との診断がされ、引退を余儀無くされます。2017年シーズンから日高町のブリーダーズ・スタリオン・ステーションにて繋養。その年には191頭の繁殖牝馬を集めますが、これは日高地区で繋養される種牡馬では最多の数字ともなりました。半兄エピソードも人気種牡馬となっており、母シーザリオの血筋もまた、この2頭を通してさらに広がっていきそうです。

**7.5**  
[木]

## ミッキーアイル賞

【グランシャリオ門別スプリント [H3]】

2011年産まれで安平町・ノーザンファームの生産馬。父はディーピンパクト、母はスターアイル (母の父Rock of Gibraltar)。現役時は2~5歳時に日本、香港で20戦8勝。芝1,600mで行われた2歳未勝利戦を日本記録で逃げ切ると、スピードの違いを証明するかのよう連勝を重ね、3歳時にNHKマイルCを制覇。その年のスワンSでは、古馬を向こうに回して重賞4勝目をあげます。脚質転換を図った4歳時こそ勝ち鞍には恵まれませんでした。5歳時の阪急杯を逃げ切って久しぶりに勝利を果たすと、高松宮記念、スプリンターズSでは2着となり、マイルCSも後続の追撃を振り切ってGI2勝目をあげます。2017年シーズンから安平町・社台スタリオンステーションで繋養。その年には141頭の繁殖牝馬を集めただけでなく、シャトルサイアーとしてオーストラリアにも渡り、96頭の繁殖牝馬に配合を行いました。

**7.12**  
[木]

## フリオーソ賞

2004年産まれで、新冠町・ハシモトファームの生産馬。父はブライアンズタイム、母はファーザ (母の父Mr. Prospector)。現役時は2~8歳時に日本で39戦11勝。2歳時のJpn I 全日本2歳優駿を皮切りに、毎年のようにJpn I レースを勝利。NARグランプリでも4度にわたって年度代表馬に輝くなど、近年の地方競馬を代表する名馬でもあったフリオーソ。8歳までトップホースであり続けたポテンシャルの高さも、高く評価されるべきでしょう。引退後の2013年シーズンから、日高町のダーレー・ジャパン・スタリオンコンプレックスで繋養。初年度産駒は2016年にデビューすると、その年の地方ファーストシーズンサイアーのタイトルを父に授ける活躍を見せます。昨年、今年と全国の地方競馬場から重賞馬が誕生しており、いつかその中から、父のように中央所属馬たちと、互角以上の勝負を見せる活躍も期待したくなります。

**7.18**  
[水]

## シニスターミニスター賞

【ノースクイーンカップ [H2]】

2003年産まれ、米国産馬。父はOld Trieste、母はSweet Minister (母の父The Prime Minister)。現役時は2~4歳時に米国で13戦2勝。シニスターミニスターの評価を高めたレースと言えば、GI初勝利となったブルーグラスS。2着馬に12馬身3/4差を付ける圧勝で、一躍、その年の米国クラシック三冠候補へと躍り出ます。日本では引退後の2008年シーズンから、新ひだか町・アロースタッドで繋養。産駒はダートを中心に堅実な勝ち上がりを見せていくと、インカンテーションがGIIIレパードSで中央重賞初制覇。古馬となってからも重賞戦線をわかし続けるインカンテーションを含めた産駒の活躍もあって、昨年はキャリアハイとなる164頭もの繁殖牝馬を集め、同年、キングスガード (GIIIプロキオンS)、ハヤブサマカオー (Jpn II 兵庫ジュニアGP)、マイネルバサラ (Jpn II 浦和記念) と重賞馬が続々と誕生しています。

**7.19**  
[木]

## アドマイヤムーン賞

【星雲賞 [H3]】

2003年産まれで、安平町・ノーザンファームの生産馬。父はエンドスウィープ、母はマイケイティーズ (母の父サンデーサイレンス)。現役時は2~4歳時に日本、香港、UAEで17戦10勝。函館競馬場でデビューを果たし、GIII札幌2歳Sで初重賞制覇。3歳時にもGII札幌記念を制するなど、北海道の競馬ファンにもなじみ深い名馬が、アドマイヤムーンと言えるでしょう。充実の4歳時にはGIドバイデビューティフリーで初GI制覇を果たすと、GI宝塚記念とGIジャパンCも勝利。引退後の2008年シーズンからは、日高町・ダーレー・ジャパン・スタリオンコンプレックスで繋養され、初年度産駒から5頭の重賞馬を輩出。アドマイヤムーン産駒にとつての「ゴールデンエイジ」とも言える2013年に誕生した現5歳世代からは、セイウンコウセイ (GI高松宮記念)、ファインニードル (GI高松宮記念) と2頭のGI馬が誕生しています。

「スタリオンシリーズ競走」は、一般社団法人JBC協会 (ジャパングリーダーズカップ協会) が産地の支援を得て、優勝馬の馬主や生産者に種牡馬の翌年度種付権利を副賞として贈呈する競走です。 ※生産牧場が海外の場合は付与対象外となります。

